

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	地域緑化支援花苗配布事業			事業コード	0767
所属コード	092000	課等名	公園みどり課	係名	花と緑のまちづくり担当
課長名	及川直文	担当者名	橋本有紀	内線番号	7270
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	うるおいのある公園・街路樹の確保	コード	4
	基本事業	公共空間の緑化推進	コード	2
予算費目名	一般会計 8 款 4 項 6 目 花と緑のまちづくり事業 (007-01)			
特記事項	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 昭和 55 年度
根拠法令等	盛岡市花苗等支給要綱			

(2) 事務事業の概要

花と緑があふれる地域づくりに資するため、自治会等の地域活動をしている団体（地域活動団体）が公園等の公共空間の緑化美化活動を行う際に植栽する花苗等を支給する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 45 年の岩手国体の開催を契機として、盛り上がりをもせた花いっぱい運動などの緑化美化を推進する市民運動を背景として始まった。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

花苗の支給を申込む地域活動団体は年々増加しており、全申込数量に対応できる予算が確保できず、支給数量を調整して配布している状況から、支給数量を増やしてほしいとの要望が多数ある。

2 事務事業の実施状況 (Do)・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

- ・自治会等の地域活動団体
- ・公園、道路等の公共空間
- ・公共施設・公益施設等

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 申込書を送付した地域活動団体数	団体	417	420	418	421	421
B						
C						

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

- ・ 地域活動団体から花苗等支給申込書を受付
- ・ 申込書の内容を審査の上，花苗配布数量を調整し決定
- ・ 地域活動団体に花苗等支給承認通知書を送付
- ・ 地域活動団体に花苗を配布
- ・ 地域活動団体から花苗植栽報告書を受理
- ・ 地域活動団体に次年度分の申込書を送付

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 花苗を配布した地域活動団体数	団体	256	260	272	251	280
B 花苗の配布数	株	59,369	59,000	70,024	65,546	70,000
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

花苗を支給することにより，地域活動団体が主体的に公園等の公共空間の緑化美化を図るようになる。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 申込書を送付した地域活動団体の内， 花苗を配布した団体数の割合	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	%	61.4	61.9	65.1	59.6	67.0
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	5,210	5,600	5,112	5,112
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	5,210	5,600	5,112	5,112
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	180	180	180	180
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	720	720	720	720
計	トータルコスト A+B	千円	5,930	6,320	5,832	5,832
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：地域活動団体に配布した花苗により、公園等の公共空間が緑化されている。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：公園等公共空間の緑化のための事業であることから妥当である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：地域活動を行っている団体は現状で網羅されており、妥当である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

その内容：地域活動団体による公園等の公共空間の緑化が進まなくなる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地がある。

その内容：地域活動団体から申込まれる花苗の数量は多く、成果の向上余地はあるが、全申込量は配布できない状況にあり、申込に添うことは事業費の増加が伴うことから、現状では配布数の増加は困難であるが、申込団体数の増加を図ることにより、市域全体の緑花美化を進めることが可能である。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公平である。

理由：地域活動を行っている団体への周知は網羅されており，公平・公正である。

(4) 効率性評価

事業費の削減はできない。

理由：現状でも地域活動団体からの花苗申込数量に対応できていないことから，事業費の削減余地はない。

人件費の削減は出来ない。

理由：現状でも必要最低限の人件費しかかけておらず，削減できない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

地域緑化支援花苗配布制度の更なる普及を図るため，ホームページの内容を更新するなど，周知の工夫を図る。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

現状でも，花苗の申込数量の6割程度しか配布できていない状況であり，事業費の確保が課題である。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

地域に密着した公園等の緑花や緑の確保については，徐々に地域の自主的な取組に移行されるべきものとの考えもあるが，そのための財源確保が課題であると考えている。現在，多くの町内会等からの申込があり，配布数の増にたいする要望もあることから，今後も事業を継続しつつ，市が進める地域協働によるまちづくりとも連携した取組を検討していく必要がある。